

HLAB

「参加した高校生・大学生が互いのロールモデルとなり、今までの固まっていた思考をもう一度ともに考え、見つめ直すきっかけを創り上げる」

そう話すのは、慶応義塾大学法学部1年の河田英貴さん。HLAB は「Liberal Arts beyond Borders」をコンセプトに、国境・世代を越えた交流による新たな教育プログラムを企画・運営する団体だ。活動の一つとして、日本の各地域で年に1度、日本の高校生を対象に1週間程度のサマースクールを開催している。河田さんは今年度、長野県小布施町で開催されるサマースクールの運営委員長を務める。

サマースクールは国内外の大学生によって企画され、理系・文系の壁を越えたりレジャー・アーツを味わえるセミナーが実施される。セミナーは高校生に向けて行われる少人数の授業であり、海外大学生と日本人大学生がペアとなり、その設計とレクチャーを行う。目的は、参加者である高校生たちに「そもそもなぜ英語が必要なのか」「なぜ勉強するのか」ということを考えてもらうことだ。そのためセミナーでは一般的な日本の高校では扱わないような内容を取り扱う。昨年度の参加者の一人、義永優樹さん(慶應義塾高校3年)は、歴史的・文化的背景の異なる芸術作品を鑑賞し、最後は生徒全員で一つの作品を作り上げるというセミナーが特に印象に残ったと話す。一日の終わりには、参加者全員がその日学んだことを復習し、そこから自分の将来や展望について話し合う「リフレクション」という貴重な機会が設けられている。義永さんは、サマースクールを通じて、勉強はテストのためではなく、自分が興味を持ってするものなのだとということを実感したそうだ。「HLAB がきっかけで自分の将来の展望について真剣に考えられた。」という。実際に、大学生とともに学問の奥深さに触れた高校生は、参加後も勉学に意欲を見出したり、中には実際に自分が参加した地域の PR をする団体を立ち上げた子もいたと運営委員の河田さんは話す。

そんな HLAB が現在、今年度の運営委員を2017年の2月13日までの期間で募集している。役職は広報や会計、人事や高校生対応など多岐にわたる。高校生がサマースクールのなかで、普段では出会えない人や考え方に触れ、彼らの将来の方向付けの一端を担うということに興味・関心がある人をこの団体では重視している。「もちろん高校生だけでなく、HLAB に関わる全てのセクターが利益を得られるのがいいところ。」河田さん自身も高校生にセミナーを開き、勉強をする意義について考えさせられる機会が多かったと言う。ハーバード大やオックスフォード大などを始めとした世界のトップの大学生と一緒に運営ができることもまた、HLAB の運営委員でしか経験できないことであるとも話している。

「少しでも HLAB に関わろうかどうか悩むだけで、その人には運営委員としてのポテンシャルがある」

河田さんは熱意を込めてそう話していた。